

事業所名 グループホームいやしの家備前
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年10月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 介護支援専門員
資格・経験 ホームヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士
B:現職 介護事業所管理者
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、精神障害者ホームヘルパー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・「備前焼の里」、伊部の中心部にホームはあり、国道2号線にも程近く交通の便も良い。ホームは、国道から少し入った所にあり、交通量も少なく、自然にも恵まれており、落ち着いた環境の中で穏かに過ごせる。
- ・代表者は、「自分の住み慣れた地域で、親の介護ができることを」との想いからホームを設立した。広い敷地の中にゆったりとした間取りで建てられており、室内の採光や動線にも配慮した造りになっている。玄関には、備前焼の里らしく、備前焼の陶板でサンライズとサンセットが模写されており、代表者のグループホームに対する思いが伝わってくる。
- ・広い敷地の隅には、代表者の親族が手入れをしている菜園があり、畑の周囲に植えられた色とりどりのコスモスの中で、元気に野菜が育っている。
- ・加齢に伴う身体機能の低下は自然なことでもあり、重度化した場合でも医療との連携を図り、看取りまでできる限り介護を継続していきたいと考えている。
- ・職員の介護資質のレベルアップと職員間の意思疎通に力を入れており、サービス向上に向けての会議や研修等を積極的に行っている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

- ・入居者の日常の様子や日頃の取り組み等を定期的に家族へ情報提供するためにも、「便り」の発行が今後の課題と思われる。
- ・「敬老会も5回目を迎え、家族の間に定着してきており、今後も続けて行きたい」、「ボランティアに任せきりにせず、職員中心の行事も企画していきたい」と、管理者・職員共に前向きに取り組んでおり、同じ思いの職員と共に、ホームの発展と地域との連携に向けて、今後も取り組んでいっていただきたい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・理念として、「1. 基本的人権の尊重 2. 家庭的な生活 3. 生きがいのある生活」を掲げ、業務に入る前には、「明るくやさしく」をモットーとして意識してから業務につくよう全職員で取り決めている。 ・今までの暮らしの延長として自分らしく過ごせるよう、入居者の生活リズムを大切に、自分が入居者だったらどんなことをしてもらいたいかを考えて支援している。 ・入居者、家族の思いや状況を見極めながら、入居者と家族とのより良い関係の継続に務めている。 ・家族の希望や意向を確認し、できる限り看取りまで支援していきたいと考えている。 ・自然な流れの中で入居者に過ごしてもらえよう、業務優先でスケジュールを進めず、ゆったりとした気持ちで日々の業務に取り組めるようにしている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者が不穏にならないよう、声の大きさに配慮しながら話し掛けたり、業務を行っている。 ・帰宅願望のある方には、一緒に外へ出かけ、気持ちが悪くなるまで待ってから帰るようにしており、入居者の気持ちに寄り添った支援を心がけている。 ・共用空間の畳のスペースは、昼食後は昼寝の場所になったり、冬場にはコタツを置いて団楽の場所になったりと入居者が自由にのんびりと過ごせる場となっている。 ・トイレに頻繁に行かれる入居者には、無理なく待てるように声掛けを行い、気持ち良く排泄できるよう支援している。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・草取り・モップかけ・洗濯物たみ・食事の下ごしらえ等々、入居者それぞれの能力や好みに応じた作業をもちょうようにしている。 ・家族からの差し入れの記録や、郵便物受け渡し表等を作成して職員間で入居者の情報を共有し、知り得た情報は外部に漏れることがないよう徹底している。個人の記録は、事務所内で保管し、金銭管理帳は鍵をかけて保管している。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや事故が起きた時には、報告書を作成して法人にも報告している。その内容については、口頭での申し送りや申し送りノートを利用して全員で共有し、対策を検討して再発防止に努めている。 ・中学生の職場体験や、ホームヘルパーの実習を受け入れており、認知症ケアの啓発の良い機会ともなっている。 ・職員の介護資質のレベルアップに向け、研修や資格取得に対して事業所全体で協力して応援している。 		